

ママ、イクメン、イクジイ、保育士、先生、医療従事者… 子どもと接するすべての人のための検定 **「キッズコーチ検定取得者」が1千人を突破！** 大学など教育機関のプログラムにも続々と導入

2014年3月、子どもと関わるすべての人のための資格「キッズコーチ検定」の合格者が1千人を突破しました。「キッズコーチ検定」は、一般社団法人キッズコーチ協会が運営する民間資格です。子どもと関わる上で必要とされる実践的なコミュニケーションスキル、リスクマネジメント、発達心理学の基礎などを学ぶ資格として2012年にスタートしました。最近では、大学の授業にも導入されるなど、活用の場面が広がっています。本ニュースレターでは、3級取得者1千人突破までの取り組みと広がりをお伝えします。

＜キッズコーチ検定取得者が1千人を突破＞

「キッズコーチ検定」は、子どもと関わる場面の多い社会人や子育て中の主婦、将来教育や保育の道を志す学生など、子どもと関わるすべての方を対象にした検定です。

検定では、子どもに答えを押し付けるのではなく、自ら考えさせ、子どもの可能性を引き出すための「コーチングスキル」の基礎を学ぶことができます。内容は受講者のレベルに応じて3級から1級に分かれており、「傾聴」、「承認」、「質問」といったコーチングスキルの基礎から問題行動を起こした子どもへの対処法まで、子どもと関わる中で遭遇する幅広い場面に対応可能なプログラムになっています。

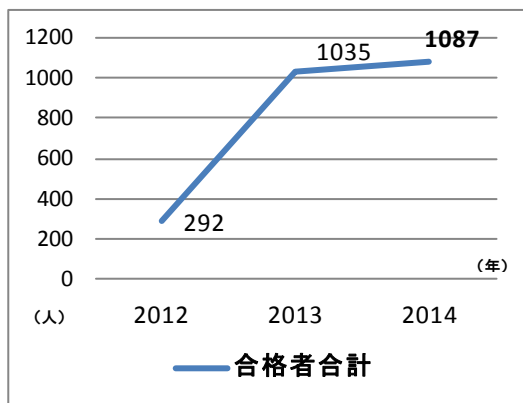
2012年11月に「キッズコーチ検定3級」を開講して以来、徐々に受講者を増やしていき、2013年には東京の他、名古屋・大阪でも講座を開催し、3～1級の合格者数が計1千人を突破しました。

受講者の詳細を見ると、女性が63%、男性が37%で、女性の方が多い傾向にあります。年代別では、最年少は17歳、最年長は68歳と幅広い世代に受講者がいるのが特徴です。特に20代から40代の比較的若い世代の受講者が多く、平均年齢は33.1歳で、本格的に子育てに関わり始める世代から支持を集めています。

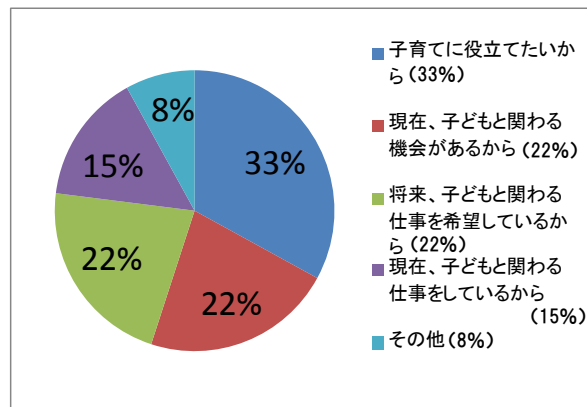


職業別では、学生、主婦、教員、保育士、学童保育指導員に加え、百貨店のスタッフ、医療従事者、公共交通に携わる方など、多岐に渡ります。

受講者のお住まいの地域は、東京・神奈川を中心に、北海道から九州地方までとなっています。今後は、関東圏だけでなく、主要都市での開催を検討しております。



▲キッズコーチ検定 合格者数の推移



▲キッズコーチ検定 受講理由(2013年)

＜教育機関でも広がるキッズコーチ検定の活用＞

キッズコーチ検定は、企業での研修や教育機関での就職対策などで活用されることが増えています。大学では、過去に尚美学園大学、大正大学人間学部、東京都市大学 人間科学部で学生向けの特別講座を実施しました。

子どもに関わる業界での仕事をを目指すすべての学生が活用できる、実践的な内容が教育関係者から好評を得ています。

【尚美学園大学に聞く「キッズコーチ検定」の活用】

一キッズコーチ検定を導入されたきっかけとこれまでの開催実績を教えてください

本学では中学や高校の教員を目指す学生や、音楽やスポーツを通じて子どもたちと関わる職種を希望する学生が比較的多いことから、子どもたちとの関わり方などを学べるキッズコーチ検定を開講することになりました。実施は2013年度からですが、累計で3級合格者は85名、2級合格者は13名となりました(3級実施:2013年4月、9月/2級実施:同年9月)。

一受講した学生からはどういった反応がありましたか？

受講者アンケートから、「実生活と結びつけながら講義をしていただいたので、とてもわかりやすかった」、「子どもとの接し方について深く知りたいと思った」といった講義自体の感想や、「今後の生活にうまく活用していけたら」、「普段子どもと接している状況を考え、『あの場面がダメだった』とわかった」などといった、講義をさらに実生活で活用していこうとする反応も見られました。

一教育上、有用と考えられるのはどういった点ですか？

例えば教育実習先でいきなり子どもたちと接することに対して戸惑いを覚える学生も少なくありません。指導対象が中学生や高校生であっても、キッズコーチ検定を通じ「子どもたちを受容し、傾聴することの大切さ」を学んでいますので、彼らが持っている潜在能力を引き出していくことに少なからずプラスの作用を与えると思われる点で、非常に有用ではないかと考えております。

一就職活動への活用についてはいかがでしたか？

現時点では4年生の資格取得者が少なく、直接的な就職活動への活用事例はまだありません。しかしながら、卒業後も引き続きダンスのコーチとして子どもたちを指導するというある学生は、コーチプロフィール欄に「キッズコーチ検定2級」と記載したところ、保護者の方から「子どもがこんな時どうすればいいですか？」とアドバイスを求められたなど、周囲から信頼を得られたという点で非常に役立っていると話しています。

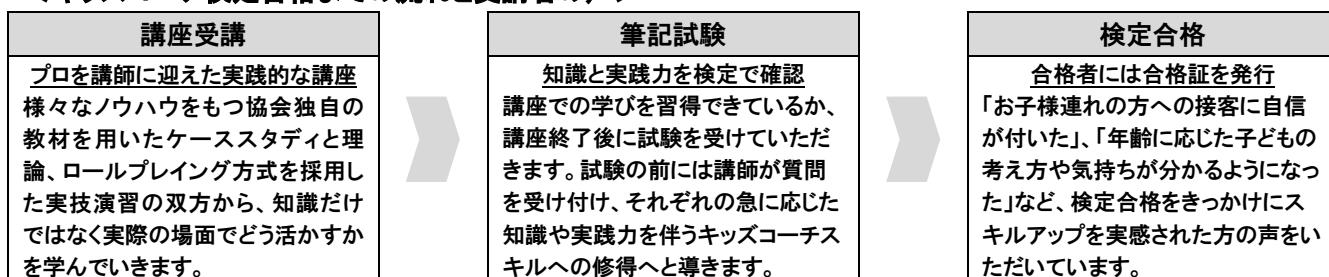


▲講座風景



▲尚美学園大学

＜キッズコーチ検定合格までの流れと受講者の声＞



保育士などの資格とはまた別の形で子どもたちと関わる資格ができ、とても嬉しかったです。ぜひ、この資格も有名になって社会に認知されるのはもちろん、様々な場面で今回学んだことを活かしたいと思いました。
(20代 女性 主婦)

今までは、子どもがあまり心を開いてくれないと思っていましたが、勉強した「傾聴」のスキルを使って、コミュニケーションを試してみたら色々話してくれるように。自身の育児経験とは別の新しい発見があった検定でした。
(60代 女性 学童保育非常勤スタッフ)

テキストの内容だけではなく、講師の方のエピソードや街中のエピソードを交えてお話してくださったので、わかりやすかった＆聞きやすかったです。今後の仕事に役立たいポイントをたくさん教えていただきました。
(30代 女性 医療関係)

子どもたちとの距離が縮まるにつれ、話をよく聞いて問題を解決するよりも、叱って終わりになってしまうことが多かったことに気付かれました。もう一度初心に立ち返り、子どもたちの気持ちを受けとめながらより良いかわりを持っていきたいと思う、良い機会となりました。
(30代 女性 インターナショナルスクール勤務)

<キッズコーチ検定の問題に挑戦！>

問題①: 子どもを叱る際に、「宿題をしなかったら、1週間ご飯抜きにするよ!」というのは、子どもをコントロールしやすいため、適切である

答え:×

解説:

「ご飯抜きにするよ!」、「今度からゲーム禁止!ゲームは全部捨てます」など、大人は子どもを脅して言うことを聞かせようとしてしまうことがあります。言うだけで実際にその罰が実行されないのであれば、子どもは「ごめんなさい!もうしません」と反省したふりをすれば、その場のやり過ごすことができると認識してしまいます。また、「この大人は口先だけの人」、「全然怖くない」と、子どもに思われてしまいかねません。

「時間を守らなかつたら、明日のゲームの時間はなし」、「約束を守らなかつたので、今日は夕食の後片付けを手伝ってもらう」など、脅しではなく約束として、必ず実行できるものにします。そして、約束をしたら、必ず実行させることが重要です。

問題②: 「ちゃんとしなさい!」という叱り方は曖昧な表現となるため、適切ではない

答え:○

解説:

「ちゃんとやりなさい!」、「いい加減にして!」と叱っても、子どもは理解できません。

「背筋を伸ばし」、「前を向いて先生の目を見て」、「黙って話を聞く」というような要求を、「ちゃんと」の一言で表現し、子どもも理解していると勝手に思い込んでしまいます。子どもにとって分かりやすく伝えるために、具体的に表現します。子どもにとって欲しい行動を具体的に伝えるだけで、子どもたちははっきりその内容を理解し行動してくれるようになります。

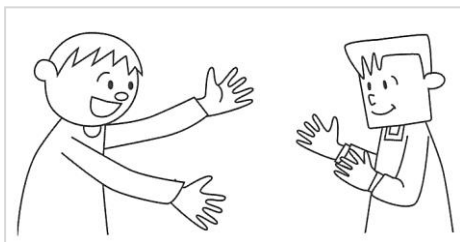
問題③: 子どもは、結果が出たときにだけたくさん褒める

答え:×

解説:

子どもを褒めるときには、「結果」を褒めるパターンと「事実」を褒めるパターンの2つがあります。大きな目標達成や結果だけではなく、そこに至る過程や成長なども認めます。努力や過程を褒めることで、自己肯定感をより育むことができ、長期的な育ちを見ると、結果だけにとらわれることなく、困難なことなどにもチャレンジできるようになります。

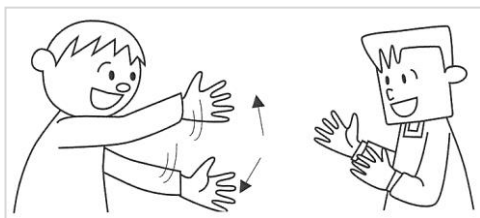
<イベントファシリテーション使える簡単ゲーム〜クロス拍手〜>



① ファシリテーターは手を広げます



② ファシリテーターの右手と左手がすれ違ったときに手を叩きます。



③ フェイントを掛けたり、リズムを速くするなどしていきます。

<本件に関する報道関係の方のお問合せ先>

一般社団法人キッズコーチ協会(株式会社キッズベースキャンプ内)
広報担当: 三沢敦子

TEL: 03-5426-3123 / FAX: 03-3439-2266 / E-mail: pr@kidsbasecamp.com